

SSKS

2022年
1995年

11月15日
8月10日

発行 第3種郵便認可（毎週1回

SSKS 増刊通巻

第8612号 水曜日 発行

障害者団体定期刊行物協会
発行所 東京都世田谷区祖師谷3-1-17

定価50円

11月号

あけぼの つうしん



秋の運動会！玉入れで大奮闘！！（府中生活実習所：3グループ）

社会福祉法人あけぼの福祉会 <http://akebono-fukushi.com>

府中共同作業所（法人本部） 〒183-0056 東京都府中市寿町3-3-6

☎042-367-0640 E-mail : kyoudous@akebono.fuchu.tokyo.jp

ワークセンターこむたん 〒183-0056 東京都府中市寿町3-3-6

☎042-306-8639 E-mail : komutan@akebono.fuchu.tokyo.jp

府 中 生 活 実 習 所 〒183-0005 東京都府中市若松町5-2

（短期入所事業併設） ☎042-363-5251 E-mail : f-seijitu@akebono.fuchu.tokyo.jp

地域生活支援センターあけぼの 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル1F

☎042-358-1085 E-mail : siencenter@akebono.fuchu.tokyo.jp

ホームヘルプステーションきぼう 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル1F

☎042-352-0630 E-mail : kibou@akebono.fuchu.tokyo.jp

グループホームペんぎんはうす 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル3,4F

（グループホームあけぼのユニット） ☎042-319-8915 E-mail : pengin@akebono.fuchu.tokyo.jp

グループホーム樹林の家 〒183-0026 東京都府中市南町6-52-10

（グループホームあけぼのユニット） ☎042-319-2268 E-mail : kirin@akebono.fuchu.tokyo.jp

あけぼのショートステイ 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル2F

☎042-319-8917 E-mail : akebonoshort@akebono.fuchu.tokyo.jp

今月の特集



第45回全国大会 in 東北・岩手への参加 東日本大震災の被災地巡りへ

被災地巡りへ

9月30日・10月1日に「きょうされん 第45回全国大会 in 東北・いわて」が岩手県の陸前高田市で開催されました。例年は利用者も一緒に参加をしているところですが、コロナウイルス感染を懸念し、残念ながら今回は職員のみの参加としました。

岩手へ向かうに当たって、復興の様子、被災当時のことを学ぶ目的で、仙台からレンタカーで移動しながら東日本大震災の被災地を巡りました。

29日から30日にかけて、被災地にある様々な震災遺構を訪問しました。小学校・ホテル・交番・駅等の様々な震災遺構を訪ねた中、率直に感じたことは「恐怖」でした。

震災当時の
駅周辺の様子



津波で鉄塔が
倒され、建物
が流されてい
ます

今まで大きな自然災害を実体験したことのない私達は、テレビのニュース等を見るだけでは震災の大きさにあまり実感が沸いていませんでした。しかし、実際に被災地を訪れ、津波により倒壊した建物をみると自分が被災にあったかのような感覚に陥りました。もし自分がそこにいてもすぐに避難や身を守る行動に移すことができるのだろうか…と考えさせられる体験となりました。

また、現地の方から聞いた「私は妻と最初の警報で避難したが、その後に「犬も連れてくる」と家へ戻る妻を止めることができず、妻はそのまま帰ってこなかった。」という話は、とても忘れることができません。

当時、6mの津波が来るとの情報でしたが、実際の津波は10m近くに達し多くの犠牲者が出了南三陸町。高校の校舎の4階の高さまで津波が到達し校舎の壁には冷凍工場の建物が流れてきた激突跡が残っている気仙沼向陽高校。津波の速さや高さは想像以上だったことが伺い知れます。被災した際は、逃げ遅れた人等を出来る限り助けていたいと思あっても、本当に大事なことは、

すぐに周りのみんなへ避難を促すことと、元の場所へ戻らないようにすることなのだと強く感じました。



津波被害の傷跡が生々しく残る震災遺構

被災から11年が経過した場所をたった1日だけ見た私たちが受けた衝撃から想像すると、現地の人の悲しみや恐怖はよりつらいものだったと思います。そんな私たちにできることは他人事だと思わないことです。

あけぼの福祉会がある府中市には河川が近くにあり浸水被害に注意が必要です。大きな地震や豪雨災害が起った時には土砂崩れが懸念される場所もあります。そのような自然災害が起きた時に私たちの施設や利用者はどのような場所でどのような行動をとれば良いのか、ハザードマップ・避難所の把握や非常時の備品の用意等、いざ避難する際の準備や訓練を疎かにせず、大事にしていきたいと改めて感じました。

全国大会

30日からは「きょうされん第45回全国大会 in 東北・いわて」へ参加しました。

その中で、特に感銘を受けたのは全国大会実行委員長でもある陸前高田市戸羽市長の「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」という目標です。ノーマライゼーションが当たり前であれば、その言葉を使う必要がない。東日本大震災の津

波で多くを流されてしまったことで、逆に全てを新しく作り直すのであれば、障害のある人もない人も同じようにいきいきと輝ける社会を目指そうと、戸羽市長は一貫して呼びかけてきたそうです。戸羽市長が初めてこの目標を掲げた時、市民や周りは、「ノーマライゼーションってなに?」というところからのスタートでした。そのような中でも丁寧に説明し、理解してもらう努力を惜しまず地道にその歩みを進めてきた戸羽市長の行動力を聞き、今の私たちには何ができるのか?考えさせられました。

陸前高田市にかかわらず、福祉や障害への社会の理解はまだまだ足りていないと実感しています。まずは福祉や障害について知ってもらうことから始めていきたいと思いました。後援会活動での広報や、地域でのイベントへの参加等、あけぼの福祉会が地域に自然に溶け込むような活動を地道に続けていくことで、府中市も「ノーマライゼーションという言葉のいらないまち」となるよう、できることから始めていきたいです。

きょうされん全国大会に参加して、たくさんの学びを得ることができる、とても有意義な機会だと感じました。このコロナ渦という未曾有の事態の影響はまだまだあります、来年は利用者も気兼ねなく参加でき、たくさんの仲間が日本中から集まる全国大会になると良いと思います。

全国のなかまと交流できる日
が戻ってくることを願っています。



ワークセンターこむたん

第42回福祉まつり

～あったか府中支えあいまつり

に参加しました～

落ち葉舞い散るけやき並木が秋の深まりを感じさせてくれる10月16日に「第42回福祉まつり あったか府中支えあいまつり」が開催されました。

今回は従来の府中公園から府中けやき並木通りと府中駅南口ペデストリアンデッキに開催会場を移し、市内の福祉団体やボランティア団体などによる出店や、福祉・パラスポーツ体験などが行われました。また会場のステージにて参加団体によるPRや市内の小・中学・高校の児童・生徒による活動発表などの催しも実施されました。



久しぶりに開催された大きなイベントにワークセンターこむたん（以下こむたん）・府中共同作業所が出店しました。多くの来場者で賑わった会場での、こむたんの販売の奮闘ぶりを報告します。



利用者と共に販売会に参加することは、
①こむたんの商品を多くの方に知ってもらう
②利用者の工賃充当のため、売り上げを上げる
③地域イベントへの参加を通し、地域社会との接点を持ち地域の方と交流を深めるといった目的があります。

従来は利用者みんなで参加していた福祉まつりでしたが、密を避けるため3名の利用者が代表参加をする形をとりました。久しぶりの販売イベントへの参加であり、みんなの代表として参加することも相まって、3名の利用者は当日が来るのをとても楽しみにしていました。

当日は、朝から心を込めて焼いたパンの

他、物品販売でも好評の最後まで絵柄の消えないケマージュ石鹼や、きょうされんの募金活動とリンクしたウクライナ缶バッジなどの自主製品を持参し、所狭しと陳列しました。週間天気予報では天候が心配されましたが、見事な晴れ！みんなの気持ちも晴れやかに出店準備が整いました。



準備万端 たくさん売るぞ！

10時の販売開始とともに、切れ目なくお客様が来ます。商品の説明や会計の対応、商品の補充など忙しく時間が過ぎていきます。ステージ企画では、利用者2名が壇上に上がり「こむたんのパンは天然酵母であること」や「添加物を一切使用していない」となど、手話を交えながら商品のPRを行いました。「ステージを見たよ。良かったよ。」と声をかけていただくなどお客様の反応も上々でした。ステージでのPRの効果もあり、お昼過ぎには店頭のパンが無くなり、慌てて追加の商品を補充するなど予想以上の売れ行きとなりました。

コロナ禍以降、地域の方との交流の機会や大きなイベント販売でたくさんの商品を買って頂くという機会は激減していました。福祉まつりへの参加はお客様と会場でふれあうことができ、売り上げも5万円を超えた

ることができました。参加した職員・利用者ともに大きな達成感を感じながら出店は終了となりました。帰りの送迎時の利用者は、自宅へのお土産を膝の上に抱えながら、充実感のある笑顔を見せていて、販売の機会の大切さを改めて感じました。



たくさんのお客様が訪れた販売ブース



販売テーブルが見えないほど並べた商品もほとんど完売できました。

最近のコロナウイルス感染者数を見ると、積極的に販売イベントに参加できる日はまだ遠いと感じる状況です。

しかし、作った商品を直接お客様とやり取りしながら販売する機会は、利用者にとって仕事への意欲につながる貴重な機会です。感染対策を徹底しながら、利用者が販売活動に関わる機会も大切にしていきたいものです。



法人設立30周年記念企画

社会福祉法人あけぼの福祉会は、おかげさまで法人設立から30年を迎えました。30周年という節目を記念して、過去の「あけぼのつうしん」の記事等から、無認可時代を含めて法人の歩みを振り返っています。今回は法人施設で長く働いてきた利用者の方にこれまでの経験とこれからのことについて聞いたインタビューを掲載します。

1995年
2022年

8月10日
11月15日

発行
SSKS
増刊通巻

第8612号
水曜日
発行

小川裕子さん 勤続37年

1985年 無認可時代に「府中共同作業所」に入所
1992年 認可後は「府中共同作業所」でふきん部に所属
「きょうされんふきん」を作った31年。あけぼの福祉会の歴史を知るベテラン利用者です



Q. 無認可作業所時代はどんな作業所生活を送っていましたか？
A. 粘土のマグネットやコルクボード作り、洗濯バサミに紐を通す作業やカセットテープの芯抜きなどやっていました。プレハブの建物に引っ越しした時にミシンが1台だけ入りました。そのミシンで作業ができるか練習をしました。ミシンの操作を覚えるのが大変でした。作業は5人位のグループでやっていました。みんなとたくさんおしゃべりもして楽しかったです。トイレが狭かったので使いにくかったです。職員に手伝ってもらっていたなあ。

これからも（あけぼの福祉会が）大きくなれるように、みんなで力を合わせていきたいです。
ミシンの仕事は現状維持だけど、それ以外の仕事にもチャレンジしていきたいです!!

Q. 法人施設になってから、どんなことが作業所生活で変わりましたか？
A. 新しい建物は広々していて作業がしやすくなりました。ミシンもたくさん入りました。無認可時代は作業に使っていたテーブルの上を片づけてお昼を食べていたけど、食堂で給食が食べられるようになりました。初めての給食は三食丼とほうれん草のピーナツ和えにお味噌汁でした。

【編集後記】

2021年6月号から、この法人設立30周年企画の記事や編集を担当しています。担当して、無認可時代からの、あけぼのつうしんをあらためて過去から遡ってみることが出来ました。無認可時代のあけぼのつうしんは、私も携わってきましたが、バザー、廃品回収、物品販売、チャリティコンサートなど、資金作りのための取り組みに紙面が割かれることが多く、法人認可を願う熱量が手書きの紙面とともに、毎号伝わってきます。法人認可後、徐々に施設毎の実践内容の記事が増えていき、利用者が生き生きと生活する姿を、写真を多く使いながら、より魅力的に伝えようという紙面で占められるようになりました。多くの紙面を見ながら、無認可時代の利用者や家族、職員の願いが法人認可と共に実現して、その後事業と実践がより広がりを持ちながら充実していることを実感しました。法人30周年企画として、振り返ってきたこと、そして今後のインタビューも、あけぼの福祉会の発展を記録する、貴重な財産になっていくのだと思っています。

（府中共同作業所 富田俊）